



Title	第1章 実証的研究に於ける時点の取扱い
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1966
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77283
Type	manuscript
Note	『鈴木栄太郎著作集 6 (国民社会学原理ノート)』を出版した際のソースとなった原稿である (同書内での言及による)。; 資料作成年不明 (システムの制約のため、発行日には没年を入力した)
File Information	X057_011.pdf



[Instructions for use](#)

No.

實際的研究における時点の取扱い

信據し得る資料が得られぬより實際的研究

は何れの民族何れの時代、（中略）も進めし事

が、（中略）か、（中略）の如く資料が最も多く最も

確實に得られ、（中略）は自分（中略）民族

の現在における最も容易に最も深く最も

正確しく最も一般的に進めし事は出来ぬ。村

落とか都市とかの如く極めし複雑な社会的

統一体における基本的構造を理するに充分

な資料がどれ丈多くても得られぬのは現在と

「全方面にわたる」

（中略）

云々如左の外には到底望むを得ない
 過去のあはれ時とくに相違に多くの史料を得る
 場合がある。これ等は知りたいたいの九年
 の一生に七倍^{及ぼ}おぼたせらる。我には社生
 活の全領域に對して確かなる案を知りたけり
 はその^外統一的^な組織を築きなく^は理解する事は
 出来な^い。我には^外現存の^{資料}一種の^類社生現
 象の正しい理解^を求むるに^はこれ^を得^るに^は資料を
 得るべき^は多い。まして過去の史実の中
 から知り得るものはと水程の不足であらう。

史実を基礎とする研究が、價値多しのものといふ
 事は当然であらうが、然しそればかりで済んだ
 社会学の^{なり}おける基本的な領域にはあり得ない
 とは^{なり}得ないと思ふ。社会学に於ける基本
 的構造原理を究明する事は社会学の最も基
 礎的な事であらうが、かくの如き構造原理の究
 明に必要なる資料は現在と云ふ時代以外には到底
 充分に得らぬものではないと信ずるが如しである。
 社会学に於ける基本的な構造原理はなほよく
 しるべき部分的要素に非ざらぬ。研究には史実

を基礎とす。研究は「世」にあり得る事である。
 けれども、それ等の研究が、実践的の社会のための研究
 の主流をなすものは、絶対にあり得ない。

No.

もしこれに
何が系統的に区別した四つの形とすると
どうしたのにはない。他民族他時代の都市の
例とある。例とある。例とある。例とある。

もしこれに
何が系統的に区別した四つの形とすると
どうしたのにはない。他民族他時代の都市の

これ等のものは、本書の内で、
見本として、

二つのもの、であるが、むしろ、
併知の、

四つの場合、であつて、
併知の、

併知の、
併知の、

意味がある

中世ケルマンの都市は、
その共同の、

市民社会の成立において、
十九世紀、
近代人の、

人同様に、
近代人の、

近世の、
近世の、

近世の、
近世の、

近世の、
近世の、

近世の、
近世の、

近世の、
近世の、

近世の、
近世の、

近世の

都市に於て我々が都市を知り得るはありゆゑの事
そのまゝにして居るは自民政の政の都市以外にはな

都市の概念を都市の
上は都市の
上は

築くものは国體の
な理由はなにもある
や他民政の都市

けれども私等が政治の都市の概念の上
に

概念を誤定すべし他は別におよ

け
水
い
し

その四つの都市は何かは何か他

民族他時代の都市である

私等が知つてゐる都市の基本的構成を

そのまゝにして居るは都市の基本的構成を
知つてゐる

そのまゝにして居るは都市の基本的構成を
知つてゐる

求めよのほかに
あつてあるか。これを

部市

此の字を他は他時代の手案都

市に概念の確立のための研究の基

かくと山

船をあくすは怕いおん冬現いあ

特定の子強ル(あ)して考考としはよ文である

凡例

一、各章の終りに附記の項を加へて居るとこ

ろが多い。附記は本文に起いし論述して居る

理論の基礎^となる^を論^述し^て的^的根^拠を^論

述^びて居る場合^に多^い。特^に附^記の^項を^設

け^るのは本文^に起^りし^論述^を簡^明に^する^為に

あ^る。

二、引用文の出所は~~本~~及~~不~~限^り模^式文^中の

場所^で明^かに^して居^る。

三、各章の~~本~~終^り附^記の^次に^附してあ^る

又は本文に起し論述に附階して居る項

補

註 ~~議~~ はその章にて論述した理論と関連多々成
 外の諸学者の意見解と比較すゝ為てあり、他
 を批判せしむか為てはなく、自分の理論を、
 うすよ事によつて、更に明白に得て為てあり。
 持の考考文証を限今為には何も述へる所
 ない。

四、本書の中には、敘述の順序か、その末、
 に私の論證の順序 を整理しては 改して居るへところか
 あり。論證の起 は 是 は 現在に於ける事
 実であり。

社会学における現在

社会学は現在における社会的な問題を研究する
 料として人々の生活の基本的構造を究明せしむ
 る事を究明の目的として片は其の如何にか、
 特に現在に於ける資料を把握するのは、人間社会
 生活の基本的構造を知り得るには、人間社会
 における共存して居るありやうの分野に於ける
 社会的な現象を観察するに必要である。かく
 の如き総合的現象を可能ならしむる時は、現在
 在以外に存在しない。現在におけるものは如何なる

・分節の社会的背景も多くの人が自由に何
 事も繰り返して観察する事が出来た。かくの
 如くは素は他社以外にはない。偶々残存して
 片の記録によつてあつた一節の社会的背景に
 同じの理解し得る事は有り得るが然しそれは
 和洋の社会生活の全般について知る事が出来
 る資料の中のほんの一部である。正に九半の
 一先にしかならない。

右の如く意味で和洋の社会的背景の最部
 の調査を完成としたり又概法を最終の集計の

根據を撰供するものは、現在に於ける時局以外には
 あり得ないものであつか。この現在に於ける時局の如
 き、辭解が争奪されし所を以てする。

社会的な方針の満ちたは、現在の、時局の自然
 の發展に於ける過激と若素との境界線を示すこと
 こそ、この時局の現時態下でないことは勿論である。
 私は、厚く厚くその政治と云ふ言葉を、用いて
 来たが、~~その~~厚く厚くその政治と云ふ言葉に規定する可
 くない。

社会的な現在とは、社会生活の主要な型が

変化して片側、下の勘子と意味するところ。此
 般生活の主要な型が変化しない所とほせ、
 と異質的にほんとな勘子であるか。それは取扱
 お同様の関係する能~~冊~~域毎に異なりあてである
 。例へば宗族に同じこの存在は、直系宗族ドリ
 夫婦宗族に移行して、あは北~~北~~の始まつた頃から
 了りてある。幾分押しし、法律によつて宗の
 別がかわくた、正時から今まではあは北~~北~~である
 のは勿論である。北~~北~~の傾向はしつとあか
 り始まつた所とほせ、その始めは何時

誤りあるかとは孤憤し難い。故に偶りに家の係
割が我々の廢止せらる時かといふ見よのは正しい。

口家といふのは、主權の存在の變動變節が
現在の状態になりゆめにかう考へる。天
皇制が廢止せらる民元制が生れし時考へる
日考へるが政治である。